



暖かい心 広い視野 行動力

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動日誌

発行

守永信幸事務所
〒870-0022
大分市大手町3-2-9
TEL 097-532-4919
FAX 097-534-6598

県民目線で県議会の活性化を



2011年第2回定例県議会は、7月7日から8月3日までの28日間開催されました。今定例会では、知事選後の肉付け予算と3.11の震災を踏まえての防災対策や経済対策などの予算が審議されました。

補正額は546億4900万円。既決予算と合わせると、5982億9100万円の予算額は対前年比0.7%増の積極予算となりました。

定例会議冒頭の知事の提案理由説明では、「知事選の期間中、県内各地をくまなく回り、多くの県民の皆さんの気持ちを聞いた。励ましを頂く一方、景気や雇用、医療や福祉に子育て、さらには農林

水産業や商工業について切実な声も頂戴しました。県民一人ひとりの気持ちを大事に、県民中心の県政という初心を忘れることなく、対話を重ね県政を推進してまいります」と述べながら、東日本大震災により発生するであろう様々な県政課題に、大分県を躍進させる気概を持って取り組む姿勢を示しました。

今回の定例会で議論となったのが県立美術館です。県民クラブでは急遽アンケート調査を行い、県民の皆さんが美術館建設をどの様に受け止めているのかを調査しました。その中で、気がかりとなったのは、大分市美術館に行くことがあるかとの問いに「よく行く」と答えた方が2.6%しかいなかったことです。時々行くと答えた方まで加えると23%となるのですが、県の所蔵品を見て頂くにしても、企画展を見て頂くにしても、県民の皆さんに関心を持って頂くことが必要です。子どもの頃に、美術館ですばらしい絵に出会って、頻りに美術館を訪ねるようになったといった子どもたちが増えてくると、美術館の存在意義も増すのでしょうか、そのような可能性を持った美術館でなければなりません。



先日大分合同新聞で、大分市美術館の入場者数が150万人に達したとの報道がされていました。この人数に達するまで12年半もの年月を要したのは、ちょっと寂しいとも感じましたが、県立美術館を作った場合に、どの程度の人が利用して下さるかも、これからの議論にどれだけの方々に関心を持って頂くことができるかによって異なってくると思われまます。

また、県民クラブの深津県議が年間3億円もの被害を及ぼす鳥獣害対策として県庁内の体制をより具体的かつ実効性の高いものへ見直してはどうかと投げかけました。それに呼応して県として小風副知事をトップとする対策本部を設置し、「戦う集落」として地域ぐるみで取り組むモデル地区を設定し関係者の総力を結集して被害軽減を実現するとしています。しかしながら、鳥獣害の多い中山間地域には、高齢者中心の小規模集落も多く、戦う体制をどの様にして組み立てていくか課題も多いと考えられます。集落毎に、最善の策を検討し工夫を凝らしながら、実践していかなければなりません。

県民の皆さんの暮らしを支えるのが県政です。皆様方の声を大切にしながら、よりよい県政をめざして、議会も活性化されなければなりません。議会活性化をめざす会派の一人として努力して参ります。

もりちゃんの活動日誌

◎高齢者の安心のために（冷蔵庫保管型救急バトン配布が予算化）

大分市内の津留地区民生委員協議会では、一人暮らしの高齢者世帯に、安心箱の配布を行ってきました。安心箱というのは、一人暮らしの高齢者に万が一のことがあった場合、ご近所の方や訪ねてきて緊急事態に気がついた方が、消防署や警察に連絡を入れる際、箱の中を見れば既往症（持病）や緊急時の家族への連絡先等が判る紙が入った箱のことです。この安心箱を冷蔵庫に保管しておくことで、緊急時に家の中を知らない人でも、冷蔵庫の中を見れば安心箱が見つけれ、必要な措置ができるというものです。東京都港区での取り組みを参考に2年前から津留地区で民生委員の皆さんの手作りの安心箱を年長者から順次配布していますが、資金の確保が悩みの種でした。

今回の県議会で、一人暮らしの高齢者の安全・安心確保のため、要援護者の支援に必要な情報を整備し、消防や民生委員等で共有するとともに、緊急時に必要な医療情報などを納めた『冷蔵庫保管型救急バトン』を県下全ての高齢者世帯に配備することが予算化されました。

県事業での対象者は、65歳以上の一人暮らし又は高齢者のみの世帯。8月に県から各市町村担当者に説明がなされ、今年度中に配布されることになると思われます。これらの取り組みも近隣の住民が知っていることより効果が高まる取り組みです。ご近所との絆を考えていくことが必要でしょう。



◀津留地区で配布した安心箱



▲臼杵市での取り組み

◎県立美術館は県民的議論を

今後100億円規模の予算で建設を予定している県立美術館ですが、5月30日に大分市の厚生学院跡地に建設予定地を決定したとの突然の報道発表があり、今議会でも、県民の理解度が充分ではないのではないか？東日本の震災を踏まえ、防災・減災対策をしっかりとしなければならぬ時に、財政的に理解が得られるのか？といった疑問が投げかけられました。

県民クラブでアンケート調査を行った結果では、建設賛成が37.7%、建設反対が23.8%、どちらとも言えないと言う方が38.5%。反対される方々の理由としては、大分市に何もかも集中して建設するのはいかな



オアシス21から撮った建設予定地

ものか、財政的にランニングコストも併せて大きな負担となるのではないかと、防災対策など他に使うべきところがあるのではないかとといった意見が多く、また建設賛成の方々の意見でも、駐車場が充分とれることや自然に囲まれた環境下に建設して欲しいといった要望意見が多く、今回の厚生学院跡地で県民の期待する美術館が建設可能かといった疑問が残されています。

今議会の予算案の採決にあたっては、震災後の対応策も含まれた補正予算議案であるため、「(県立美術館建設については、)県民に情報を伝えるとともに、県民意見を

取り入れるよう要望する」との意見を附して予算案に賛成したところです。県民クラブでは、県立美術館建設問題検討委員会を会派内に設置し、より良い美術館建設をめざして行動していく予定です。

県立美術館の基本構想は答申が出されているものの、具体的な内容が示されているものではありません。具体的な案はこれから示されてくることから、現時点ではなかなか議論しにくいものではありません。今後、選定委員会が設計業者を2段階プロポーザル方式で選定していきますが、その経過を含め、県民の皆さんに広く広報できるように工夫を求めています。

子どもの頃、誰もが絵を描くことが楽しいと感じたもの、いつの間にか絵から遠ざかってしまった方も居られると思います。子どもの頃のように絵を楽しめたら、そんなふれあいの切っ掛けとなる取り組みが美術館建設準備と一緒に出来たら良いと考えます。

◎障がいのある人もない人も差別無く暮らせる県条例をめざして

6月4日、「誰もが安心して暮らせる大分県条例をつくる会」の結成総会に参加しました。徳田靖之弁護士が代表世話人として呼びかけを行った「つくる会」ですが、障がい者に対する差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる大分県をめざすものです。

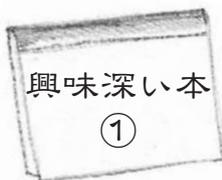
結成総会では、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」づくりに奔走された野沢和弘さんを講師に事例紹介が行われ、大分県としても千葉県の取り組みを大いに参考とするべきと参加者の多くの方々が感じたと思われます。



「つくる会結成総会」で記念講演をする
毎日新聞論説委員 野沢和弘さん

結成総会以降、8月迄に2回ほど世話人会が開催されています。当面は、大分県における障がい者を取り巻く環境事例調査を行う計画ですが、実態把握と健常者の意識啓発の作業が重要な取り組みと考えます。県条例を作るまでに、障がい者がどのような環境に置かれているのか、健常者との様にすれば一緒に生きていけるのか考えていく必要があると思います。健常者も何時障がいを持つことになるか分からない訳ですから、人ごとではありません。

生きづらいと思う方々の苦しみが和らげられる社会が、多くの方が暮らしやすい社会に近づくことです。そんな大分県に近づけていきたいものです。



津波災害～減災社会を築く～ 河田恵昭（かわた・よしあき）著



この本は、2010年2月27日に発生した南米チリ沖地震津波を契機に著作されたものです。この日、日本でも津波警報が発令され約168万人に避難指示・避難勧告が出されたのですが、実際に避難したのは3.8%（約6万4千人）に過ぎなかったとのことです。

著者は、「（津波警報時の実避難率は、）年々低くなっており、「こんなことではとんでもないことになる」というのが長年、津波防災・減災を研究してきた私の正直な感想であり、一気に危機感を募らせてしまった。沿岸の住民がすぐに避難しなければ、近い将来確実に起こると予想されている、東海・東南海・南海地震津波や三陸津波の来襲に際して、万を超える犠牲者が発生しかねない」と訴えかけています。

この本が出版されたのが、2010年12月17日。私にこの本を紹介して下さった船橋泰彦氏（元大分大学教授）は、「著者の無念さを想像して、私まで心が痛みました」と語っていました。

この本を読んでもみると、津波のことを知り、生き残る術を身につける、特に避難することを身につけることの大切さが様々なデータに基づきながら、切々と綴られていました。是非、ご一読頂きたい書籍です。

<参考>『津波災害～減災社会を築く』（河田恵昭著）岩波新書（新赤版 1286）

◎7.13 JR九州ユニオンの組合員の皆さんと意見交換

JR九州ユニオンの組合員さんと意見交換を行いました。3月11日の東日本震災の状況を見て、日豊線の多くが海岸線を走っており、それらの区間では、地震発生時に列車を何処に留め、乗客を何処に誘導していけば良いのか細やかに決めておく必要性を感じているとの声がありました。



今議会では、東日本震災を踏まえての防災対策等が議論されてきました。竹村恵二京都大学教授を座長とする大分県地域防災計画再検討委員会識者会議によって東日本震災を踏まえた見直しの提言書がまとめられています。その提言書の中では、平成16年に策定した東南海・南海地震での想定値の1.5～2倍の津波の高さを採用することが盛り込まれています。新たな想定により、大分県地域防災計画の見直し作業が進められていきます。JR九州の災害対策についても、議論が必要だと感じました。



行動日誌

- 5.27 九重町職労定期大会
- 5.28 原水禁県民会議定期総会
社会科学研究会
- 5.31 県職退職者会国東支会総会
- 6.1 県職連合・企業局労新入組合員学習会
- 6.1～2 農林水産委員会大分地域調査
- 6.3 大分県2011年度予算説明会
県民クラブ鹿・猪料理試食会
- 6.4 在宅支援ネットワーク総会
だれもが安心して暮らせる大分県条例をつくる会結成総会
- 6.5 城東・原川地区体文協総会
- 6.7～8 総務企画委員会事務調査(久大・県北地区)
- 6.10 勤労者OBGの会総会
斉藤光寿さんを偲ぶ会
モンゴル総合生協学校児童を囲む夕べ
- 6.11 大分市平和運動センター8の日行動
- 6.15～16 総務企画常任委員会事務調査(大分・国東・別府地区)
- 6.17 土木建築常任委員会大分地区事務調査(地域づくり機構)
附属中学校父親部(おとり会)交流会
- 6.18 社会科学研究会
- 6.19 県庁校友会総会
- 6.20 エヴァーズ内覧会
- 6.21～22 文教警察委員会大分地区事務調査
- 6.22 社民党学校(講師:平岩県議)
- 6.24～25 連合大分2011役員研修会・交流会
- 6.26 社民党県連定期大会
- 6.28～29 総務企画常任委員会事務調査(県南・豊肥)
- 6.30 県職連合定期大会
- 7.3 津留地区成人ソフトボール大会
- 7.7 県議会(開会、会期8月3日迄)
- 7.7 1年生議員学習会
津留地区体育協会理事会
- 7.9 大分市平和センター8の日行動
碩田中学校3年1組クラス会
- 7.10 津留地区グランドゴルフ大会
- 7.11～12 県民クラブ議案学習会
- 7.13 原発廃止を求める大分県中央集会
JR九州ユニオン労組意見交換会
- 7.14 スポーツ議員連盟総会
- 7.15～16 自治労大分県本部地方自治研究集会
- 7.16 青だるま会セミナー
- 7.23 県職連合バドミントン大会
藤田祐幸氏講演会
社会科学研究会
- 7.24 羽明省三氏を偲ぶ会
- 7.25 社民党学校(講師:竹内県議)
- 7.27 JR九州ユニオン大分地域本部定期大会
- 7.28 さよなら原発・こんにちは自然エネルギー
- 7.29 職業能力開発校評議会総会
- 8.2 県職労別府支部定期大会
だれもが安心して暮らせる県条例をつくる会世話人会
- 8.3 県議会閉会
豊後大野市立病院・県立病院連携会
- 8.4 庄の原佐野線滝尾・明野地区促進期成会総会
ムッチャン平和祭
- 8.5 九州各県議会議員野球大会(～6日)
県職連合ステップスクール
- 8.6 8の日行動
- 8.7 城東原川地区体育文化協会ドッジボール・グランドゴルフ大会
- 8.8 大分政経懇話会(講師:村上和雄氏)
- 8.9 大分の魅力発見チャリティーイベント

編集後記

第2回定例会では、予算特別委員会で何度か質問をしましたが、議員として執行部に質問を投げかけ、私自身の考え方を伝えるのは、案外難しいものです。次回第3回定例会では、一般質問に立たせて頂く予定です。労働者の賃金引き上げを実現するためにどのような施策展開が必要なのかを念頭に置きながら、質問の内容を考えているところです。